

2016年3月4日（金曜）

全労金2016春季生活闘争ニュース・第2号

【中央闘争委員長メッセージ】

全労金組織全体で統一闘争を取り組み 「底上げ・底支え」「公正処遇」を実現しよう

全労金2016春季生活闘争は、「統一要求提出日」を迎えました。

本日の団体交渉等において、全労金と全14単組は、金庫・事業体・関連会社に、要求書や申入書を提出し、2016年度の労働条件を決定する労使交渉を開始しました。

全労金2016春季生活闘争は、全労金組織全体で取り組む「統一闘争」と位置づけ、連合方針等を踏まえ、①働く者を守る様々な運動に積極的に参画するとともに、労金業態で働くすべての労働者の安定雇用と生活改善、及び、労働条件の統一に向け、「底上げ・底支え」「公正処遇」の実現に積極的に取り組む、②労金業態で働くすべての労働者が、心身共に健康で平等に働き続けることができる環境を整備する、③全労金組織全体で統一的な運動を展開する、の3点を基本スタンスとしています。

この間、全労金・単組は、「労金業態に働くすべての労働者が安心して働き続けることができる職場環境の実現」に向けて、「安定雇用・労働対策・公正処遇」の取り組みを一体となって進めてきました。この取り組みは、この間の春季生活闘争においても、「無期雇用転換権の付与」「総労働時間の短縮」「退職金制度の確立」など、“結果”として現れており、全労金組織全体で最終目標である「労働条件の統一」に向け、同じ思いを持って闘いを進めてきたからこそと考えます。また、全労金の春季生活闘争における「統一闘争」は、「統一要求」を掲げることのみではなく、個別要求課題に対して、同じ思いを持って闘うことを確認し、それぞれの立場で「要求」「協議」「仲間への支援」等を進めることと位置づけました。

私たち労働組合には、春季生活闘争を通じて、連合をはじめ、多くの仲間との連帯・結集で、政治や地域活動を含めた社会的労働運動をより強化し、労働者の雇用・労働条件・生活に関わる課題の解決に向けた取り組みを展開することが求められています。

本日以降、全労金中央闘争委員会・単組闘争委員会は、金庫・経営側と交渉・協議を進めますが、交渉・協議のバックボーンは、組合員9,000名のみなさん一人ひとりの想いや拘り、そして、労働組合に集う結集力です。本日開催する一斉職場集会では、すべての組合員が「統一闘争」として全国の仲間との共闘体制を構築する観点から、「檄」を作成することとしています。全組合員が職場組織から闘争態勢を構築し、私たち全労金組織の組織強化を実現させ、回答期限日までに満額回答が得られるよう、力強く闘い抜こう！

中央闘争委員長 末留 新吾